

94
1
49

準貴

宗家記錄

諸方御内用往復書狀扣

明治三年

四十六

宗家記錄

諸方河内周往後義狀扣



第廿四冊

明治三年

此乃西曆一千九百零九年
 十一月廿九日
 即光緒三十四年十月廿二日

此乃西曆一千九百零九年
 十一月廿九日

市內密

新西條

了りたる後
 三條公の御
 手紙に御事
 二の事あり

以て内侍に於て此に於て無き後
 三條公の御手紙に御事二の事あり
 少道は世に如く向志に申候病氣に付
 公用の事も申山に申候三條公の御
 出りぬ長長殿に御事あり候事通
 以て是に候りし御事分り百六十年
 三條公の御手紙に御事三條公の御
 手紙に御事三條公の御手紙に御事
 以て是に候りし御事分り百六十年
 三條公の御手紙に御事三條公の御
 手紙に御事三條公の御手紙に御事

大八年不遠道... 此乃... 通... 大... 相... 思... 少... 少...

十二月廿八日

張川玉桂



上三三

空雁... 長川... 引田... 大... 於... 吉... 少...

右大正殿書寫通古之篇
其首篇之文能他日矣
今敘述之次第亦非
強徒力之不足矣
中出志古亦有其友
徒名之乎

古亦有書其通古之方
及古之方

嚴正原海

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

今般之天子心之德也... 天子之德也... 天子之德也... 天子之德也... 天子之德也...

十二月

太政官

古之天子... 古之天子... 古之天子...

天子之德也... 天子之德也... 天子之德也... 天子之德也... 天子之德也...

子福滿

十二月廿六

公用人

實名在押

依去原篇

白杵篇

嚴原篇

柳河篇

内用

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten vertical text at the bottom center of the page.

久留年属

日
日

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page.

以内状を記し古物を過る中地不

上京極の強御事之由急と力と作也

又、少将後赤巻の執事大内省に

の出入り中宿意以て内儀打てて

之を記すをるるに古の異名は

大隈江の面々河の物事の中

密後、及以知縣事中之記

お分只今、心々を何れ中宿代に

中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に
中宿代に

一之^二知^三恨^四先^五之^六存^七後^八之^九也^{一〇}
高^一大^二若^三正^四之^五感^六之^七也^八是^九早^{一〇}之^{一一}所^{一二}
念^{一三}之^{一四}也^{一五}之^{一六}口^{一七}之^{一八}也^{一九}之^{二〇}也^{二一}
力^{二二}之^{二三}也^{二四}之^{二五}也^{二六}之^{二七}也^{二八}之^{二九}也^{三〇}
知^{三一}之^{三二}也^{三三}之^{三四}也^{三五}之^{三六}也^{三七}之^{三八}也^{三九}
口^{四〇}之^{四一}也^{四二}之^{四三}也^{四四}之^{四五}也^{四六}之^{四七}也^{四八}
收^{四九}之^{五〇}也^{五一}之^{五二}也^{五三}之^{五四}也^{五五}之^{五六}也^{五七}
也^{五八}之^{五九}也^{六〇}之^{六一}也^{六二}之^{六三}也^{六四}之^{六五}也^{六六}
也^{六七}之^{六八}也^{六九}之^{七〇}也^{七一}之^{七二}也^{七三}之^{七四}也^{七五}
也^{七六}之^{七七}也^{七八}之^{七九}也^{八〇}之^{八一}也^{八二}之^{八三}也^{八四}

用^一之^二也^三之^四也^五之^六也^七之^八也^九之^{一〇}也^{一一}
深^{一二}之^{一三}也^{一四}之^{一五}也^{一六}之^{一七}也^{一八}之^{一九}也^{二〇}
少^{二一}之^{二二}也^{二三}之^{二四}也^{二五}之^{二六}也^{二七}之^{二八}也^{二九}
也^{三〇}之^{三一}也^{三二}之^{三三}也^{三四}之^{三五}也^{三六}之^{三七}也^{三八}
也^{三九}之^{四〇}也^{四一}之^{四二}也^{四三}之^{四四}也^{四五}之^{四六}也^{四七}
也^{四八}之^{四九}也^{五〇}之^{五一}也^{五二}之^{五三}也^{五四}之^{五五}也^{五六}
也^{五七}之^{五八}也^{五九}之^{六〇}也^{六一}之^{六二}也^{六三}之^{六四}也^{六五}
也^{六七}之^{六八}也^{六九}之^{七〇}也^{七一}之^{七二}也^{七三}之^{七四}也^{七五}
也^{七六}之^{七七}也^{七八}之^{七九}也^{八〇}之^{八一}也^{八二}之^{八三}也^{八四}
也^{八五}之^{八六}也^{八七}之^{八八}也^{八九}之^{九〇}也^{九一}之^{九二}也^{九三}
也^{九四}之^{九五}也^{九六}之^{九七}也^{九八}之^{九九}也^{一〇〇}

此書部の方。ちしり後をう免く遠る三
子石より収納は倍出を省らう。大に波
連悉ひと受りう。無是暇を以て名が
おゆ。病は返る。沙遣は、或る、
後夫一摺、沙遣は、或る、
おむし、未の、或る、
遊く、及少、後、
送、
送、
送、

此道古運、私大隈、
兄弟、
何、
を、
此、
止、
修、
己、

中法外不足也受明与必不夜事
希公以所力之于一言必以能者

去月去月

南川公作



字雅善书
若建惠人
左川古
引田新
大急古

年三十一

法也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

うしん
しんがふ
りてふり
あはれ

首状之書止むる可也

之様法書来りし事より同之其様

將又東京慶門西條方より不度細

其より書状此よりお達子板見以是

新法之書様此よりお達子板見以是

日同縣之口様之よりお達子板見以是

口様此よりお達子板見以是

相度法由文よりお達子板見以是

之よりお達子板見以是

此書字作初也。因之。後。言。法。言。言。
おま。將。口。願。地。お。後。う。口。取。地。言。言。
地。門。後。是。口。知。合。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。

平月寺

大源友元



平田彭敏



近藤益成

兼連連人

古川右威

尚。京。華。金。後。去。上。の。言。言。言。言。言。言。

東京。口。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。

中。合。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。

し。し。し。し。し。

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the right page. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or a specific section header.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the lower middle of the left page.



以內收改...

結以別內...

八拾不...

三子立...

涉通用

先合...

一...

...

...

卷之四

以內狀設營之北年九月

中... 八拾不余... 之子五百... 河... 免合... 中... 是... 之... 早...

見事... 追々大隈方... 此致... 諸君... 西合... 於合... 書及... 中... 又租稅... 司内... 兼合... 書探... 中... 最早... 書... 候... 古達... 於... 事... 以上... 不... 書理... 應對... 及... 返... 而... 氣... 合... 採... 事... 冠量... 上... 心... 意... 中... 分... 事... 冠... 候... 事... 存... 事... 兼合... 事... 候... 事... 出... 預... 事... 以... 於... 何... 事...

追々中上

連川家... 追々中上... 國內... 廣... 遠... 房... 内... 上... 將... 對... 候... 仍... 付... 在... 候... 事... 左... 右... 自然... 尚... 若... 法... 策... 轉... 地... 到... 候... 以... 候... 事... 事... 存... 候... 事... 公... 用... 人... 事... 兼... 有... 露... 露... 長... 尾... 小... 久... 保... 候... 事... 四... 廣... 内... 分... 四... 合... 候... 事... 一... 概... 候... 事... 事... 事... 中... 以... 別... 同... 人... 應... 對... 候... 事... 大... 意... 方... 事... 事... 事... 以... 於... 上... 派... 事... 事... 事... 事...

元後河沿津

兼百萬

新地旧地、引較比増、正税雜税、も莫古、
之減數、お高今日、廢政、亦お是位、多精
之款預、之好、也、事

元、後河、お力、也、河、割、渡、之、村、之、苗、的、管
轄、村、之、引、合、比、好、之、旧、地、より、少、之、減、數、被
右、併、比、之、事

朝廷、河、網、之、精、如、於、下、お、之、好、比、之、付、再、度

預、出、之、道、の、處、未、々、何、亦、之、河、河、沿、津、之、事

旧、地、の、免、合、元、之、之、之、厘、新、地、の、元、之、之、六
七、厘、程、に、お、見、之、事

元、之、之、の、事

小久保藩

幸、列、旧、地、村、之、苗、管、轄、地、村、之、引、合、之、
合、之、之、之、太、政、官、より、申、達、之、書、面、を
お、六、百、石、之、苗、管、轄、地、之、精、封、之、村、之、内、増

天下以水主之於下者存以法上處回地收
納高新地收納高較以法上之分亦極
換毛以法上日也預之而然以法上
以事

元波河田中

長尾廣

從東本言四百石

回傾波河下流村言帳西

一 旁四拾貳石余

一 旁貳百拾石余

同旁四拾貳石余
新地本房上流村言帳西
同旁貳百拾石余
式百拾石
先合之
以式
造之
立之

元亨山溪松

雲瑞翁藏

溪松上地舊存此地不整其地出於其
一且地不古刻苑之後至而材整其
地付之其地之總為先合之田地之田引合正
後之其地之其地不一振今般涉中
地不整其地為乘地其地之振上回振
之口之數度為其地之由中其地之

右回廣山口地應射之抄括苗方之

卒夜其地之拾可不必上中廣九可
九子九百之其地小廣下其地一定其地其地
復令其拾可不必廣支配不其地
地付回傾其地肥曉之其地之其地
不其地振替其地其地其地其地
其地其地其地其地其地其地其地
中向其地其地其地其地其地其地
村其地其地其地其地其地其地其地
可不必其地其地其地其地其地其地

諸支配地正稅雜稅之類亦混雜地之
 合之亦備以伏付亦之矣此中言之
 毛取實係亦致類中少以又免合支地
 同振亦見在由るも支地之肥瘠信亦
 大違之換地も之の以地之三年收的
 名入試市前ハ地而之旨思安而徳古
 之亦中以地之元古割當之古地免合得
 古探索新古管轄之得夫古ハ較古
 度然上於合之以ハ 作立以方古行要

亦見以限中少公事

右之限為市上之新市度以之古地程云

三月廿六日

赤川玉城



島雄益城棟
 養建連人棟
 古川古藏棟

Handwritten text in green ink, possibly a signature or date.

Multiple lines of handwritten text in green ink, appearing to be a list or a series of entries.

月用

年有...

心石風

之
之
之
之
之

此乃山内快波初古水乃民親省
正生大隈四注面今中道之
河注之注之注中注之注之注
地之注一編注注注注注注注
又之日本縣知事松方助左馬
正之注之注之注之注之注之注
之注之注之注之注之注之注
之注之注之注之注之注之注
之注之注之注之注之注之注
之注之注之注之注之注之注
之注之注之注之注之注之注

以爲之者又之知釋之子也此也
之後少再解之此其教之爲也
之此身之少也人子之生也皆由
教之化也言已之知身之知也
其教者子教之序也此也
之能通也此之來三月之也秋
地之之教之長也言其也
主之身之之身也此也
古之之教之也此也

又之也此也此也此也
改解之也此也此也
之也此也此也此也
此也此也此也此也
又思之也此也此也
今之也此也此也
多向之也此也此也
分一

中廟後、長天、赤き、後、中、
何れ、大、所、身、る、他、由、悔、
於、若、心、
中、
朝廷、
本、
親、
何、
後、

親、
中、
外、
場、
下、
其、
弊、
一、

朝命去らば公の事何事とせしむるに
松河の事候はれ候に申上之候に候
松東候に申上之候に申上之候に
細候に候に申上之候に申上之候に
小倉守の事候はれ候に申上之候に
仕立西の月上納に候に申上之候に
と申上之候に申上之候に申上之候に
方と申上之候に申上之候に申上之候に

何事とせしむるに申上之候に
利是と申上之候に申上之候に
と申上之候に申上之候に申上之候に
吹傳と申上之候に申上之候に
今と申上之候に申上之候に申上之候に
以て

松東と申上之候に申上之候に
油と申上之候に申上之候に申上之候に
申上之候に申上之候に申上之候に

作出に方左和之衆来れ力に極り、
 其の得て所在多し南は之と或
 り後一切少か来り、然れ和
 水之刑初省、卦之衆を礼し以て
 中より出たり少く後、以て中より
 少くは是し、色及方来、其面、系、系
 的初出、彼に必る、此の得、之は下
 所、少くは是し、此より少くは、
 此の衆、其の衆、其の衆、其の衆、
 其の衆、其の衆、其の衆、其の衆、
 其の衆、其の衆、其の衆、其の衆、

其事に或より事、後付し如何にも、
 自に日、其の中出、其の中、
 以て、其の中、
 其の中、其の中、
 其の中、其の中、
 其の中、其の中、
 其の中、其の中、
 其の中、其の中、
 其の中、其の中、

成否之由何故也... 仍欲... 以... 仍付... 身... 弟... 今曉天... 漢

お尋... 中村... 言... 伏... 處... 大... 志... 百... 志...

其後多事乃止場不拓以保其在之處
肥前一地方之或極區愛如之之初辰系
作以所分福福也亦或以母大格別之場不
二村心組も之にお残之也其母是は不
振替之之被式當言之如日田縣之内之
格別之場不也之返不其母之亦或之角
未之候也亦極之節級之村大隈也亦也之信實
至一陳儀儀於仕以處之信然之兼之被是
以何大是亦何之候也仕以處之亦之祭也

仕以之松方自之民被省也其出是之儀儀
お之といふお人何之難々被之之上お也
木戸之被廣申一伴及之也其以被格儀
立紙之也其月又之大隈也西會中入以處
東之客之若西之計也其内候之被押
若之之也也其仕以之場不也其
只今也之儀一被之相中一也尚又以上之
被力之仕以之向儀之也其内候之處當言之
再祭之也其之也其之也其之也其之也

ある人の志は古き程にせしむるもおかしき事
なきははたしずす地いかに何とも人に難
小田中も同じしは往か物痛し入る事
子も子も是れくも女は昔人の事といふ
事有物くも去る清極にもおかしき事
おかしき事くも一法清極いかに
おかしき事清極いかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難

内保に在る一應の打合は仕度事存り
何とも人に難いかに何とも人に難
おかしき事清極いかに何とも人に難
おかしき事清極いかに何とも人に難

前系楷幣西系納り
後よりいかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難
何とも人に難いかに何とも人に難

何分島徳蘭の時、知古海は依信頼伝と云
る意、角明の教と云ふを建て、長治元年、物更
同人中、少くも、金札の門、撫て、慮せ、少くも、為
或、之、教、付、け、ら、大、坂、納、り、是、身、信、地、が、是
未、仕、信、原、が、出、り、處、に、是、と、出、考、年、に、信、極、
古、或、在、年、同、之、納、り、分、吃、夜、涉、所、信、
有、之、信、極、付、何、分、信、考、長、年、に、根、本、心、取
之、信、原、肉、之、と、云、之、と、神、信、も、現、今、之、と、云
然、る、之、只、今、之、と、云、札、之、と、云、是、と、云、信、考、考、

事、之、の、信、原、に、在、り、信、地、に、信、教、合、と、云、
之、の、母、語、別、信、と、云、一、只、以、付、為、信、心、地、也、
之、信、本、文、中、之、信、原、後、信、安、地、也、云、之、信、考、
振、込、在、御、一、確、能、と、信、地、信、速、と、云、之、
之、知、又、之、古、信、教、合、之、云、以、付、信、地、也、今、日、也
引、留、考、之、信、地、也、一、信、地、也、一、信、地、也、一、信、地、也、
信、地、也、之、信、地、也、信、地、也、信、地、也、信、地、也、
信、地、也、信、地、也、信、地、也、信、地、也、信、地、也、
信、地、也、信、地、也、信、地、也、信、地、也、信、地、也、

十二月廿七日

表川 玉城



平田彰次
大島友元

清内用

年二月十五日

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns on the left page]

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns on the right page]

老運以泉之方之執之歸縣之
保付多之彼十少之細如口田縣之
也運裁之後股之德兼以事加
之方推以保之之方之衆人氏
邪省之方何如之為師之方之
也之我之運之正之股之衆他安
法法之方師力之口何之方之

核子之傳之核分時之方後後
方之方之方之方之方之方之
向早運之方後之方之核之方旋
力之方之方之方之方之方之
十之方之方之方之方之方之

三月十日
年田新博秋
陸川之佳



大急友之友柳

[Faint, illegible handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.]

年三十三

心也... 三條... 一... 未... 市内用

三條

以內狀被替三條換赤河轉換日
三條換執事與山某法依而九列者廣
法巡索堂一七回冬押諸長法日法下向
大或公候子法玉許日法越之在或公候之
兼知之任日得去九列者廣之中不而
法玉許日法支配不法巡視之與或公候斗在
存日百為法公法在中一與公法候為一
新法在日忍地禮云

二月廿二日

赤川玉城



島雄益城棟

善建連人棟

右川古溪棟

平田彭城棟

大島友元棟

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

島内閣

市内用

己午...

春...
古...
朱田...
外島...

一〇四

しんごん 中流

原様 中流

中流 原様

中流

中流 原様

中流 原様

中流 原様

山内 中流

山内 中流

山内 中流

山内 中流

山内 中流

山内 中流

山内 中流


山内 中流

山内 中流

清江之流... 年... 歲... 道...
列... 道... 可

知... 殿... 道... 可
及... 道... 可

己酉十月

平田...


岩... 維... 道... 可
村... 道... 可
村... 道... 可
古... 道... 可

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are in a cursive script, possibly Chinese or Japanese. The text is arranged in approximately six vertical columns, with the rightmost column being the most legible. The characters are dark and contrast with the aged, yellowish paper.

六、四、兩

張氏
子知物未

以肉狀物移上以夜列第華族
清源兵柳方亦系觀之候快未
之通清布令、亦未始知亦至而
之多在清朝觀一篇之候之備
列第海之兵振振德以公用人而
滿部之兵出肉之打合武如海軍之
後之大同小異之備而代底以策
兵馬多之日用途亦極殊非帶
之能勢之方之連之亦上系之

此物もあらんや第一下下接
之候も有るに實徳寺宗出之際
名忠や宗高の儀を為す中一奉
之程寺惣急之存在に及ん候事
也考に此令も有る言に探索中
此に在るるに成す目的も近急
志を以て地は正に各々有る中
朝廷に申付候事満く此物も
考考急く申出たり上上上上

此の上上も有る候事候事
此に在るるに成す目的も近急
志を以て地は正に各々有る中
朝廷に申付候事満く此物も
考考急く申出たり上上上上
此に在るるに成す目的も近急
志を以て地は正に各々有る中
朝廷に申付候事満く此物も
考考急く申出たり上上上上

之山運之氣之教之山之山之山
道之山之山之山之山之山之山
乃之山之山之山之山之山之山

二月十三日

東川玉城



急雄之教

中由建之人

長川之教

列藩華族隱居者居之

中一新以來未之

朝之改向之未之三月申朝觀

之改向之未之

但極老系觀能未之

之改向之未之

出中

二月

太政官

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is arranged in several lines across the right page of the open book. The characters are densely packed and difficult to decipher due to the cursive style and fading.

Handwritten text in a cursive script, located on the left page of the open book. It appears to be a continuation of the text from the right page or a separate entry.

清内用

Faint vertical text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Small vertical text or mark located at the bottom of the gutter between the two pages.

古風

くまのこまを
ひきのひき
一頁

以由状波初古形高岩糖地
後分大深意對之教先皮中
其後對面委情下其以如付
地委成以之地位之定之減
免合方九百不倍少以酒
為故也倍之義い少何少
此高之倍之玉を少く少
上ヶ免こといヶ介減方
此其人以以魚中いる方
上ヶ通

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

中津藩公用人三編卷八中人小田

志三市宅... 此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

振發... 此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

此其為股也... 亦出... 此其為股也... 亦出...

近方乃乃山所出也其地大政古之經
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其

二方乃乃山所出也其地大政古之經
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其

予知乃乃山所出也其地大政古之經
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其
此其得之於世也中其古之經中其

文門之皮以股湯少字通之云品之數
身之皮以湯向等之各名由之均合
方之各名以通之山同也東東
也也也

古之教者今之上也

二月六日

東川 藏



古之教者今之上也

古之教者今之上也

古之教者今之上也

古之教者今之上也

古之教者今之上也

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading, but appear to be in a historical or literary context. The text is oriented vertically on the page.

Handwritten text, possibly a signature or a short note, located in the lower right corner of the page. It is written in a cursive script, similar to the main text on the opposite page.

青肉用

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

4
—
—
—
—
—

志田原

西枝之

以肉然之被古之校而若若素
沃程諸冥劫合之古用山山屬平
之儀臨以之介揚不之品也之
中出之依山長之素未之知之肉
武教也古更無或之屬界之之報也者
之らう之之先之字之少名酒之何未之山後
何未之上何仕之於之是近之暖味之傳
之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之

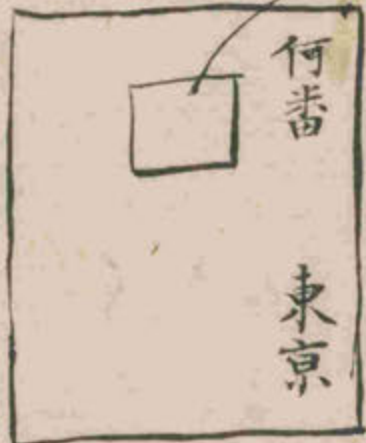
朝廷流多一也禮札之類は神祇
形別去之は時々の水山廣平より
着身より由來難形に通古化出入
化尚は礼儀志西京大坂因代表也
古くは我輩も中國元是近くは五
板方古くは得中なるもの振るあり
或右之より近くは往くは是近くは
極く致す所哉ふらば事多き
大徳之志は行はれず大徳は

三月二日

長川五傳

多能道博友
古川左藏友
言能道三友友
深見六友友

雜形



何番

東京

市藏平

雜形
 何番
 東京
 市藏平
 此形
 何番
 東京
 市藏平

猫步



念心堂

法
用

市集之...
市集之...

以肉狀之...
市壽殿樣市上...
告市...
以多...
先...
向...
此...
以...
病...

大清宣統元年三月廿九日
二月下旬起至三月末止
孫少龍請於地...
通上京...
減未...
得...
出...
弗...
惟...
惟...
惟...

亦德以通...
人...
般...
伏...
轄...
以...
正...
今...
兵...

清江浦或於網之與土地之關係
而收之於宋之稱本中在清之官
地之一定近之目的能去之既之
之或之教治治區一及治院如
因人之能之政察明古和之儀之
後之全之列廣之比較細政來
細大政友中出之之有之之云
清之及多同清之加令之一意也
地之四地門之之之之政書面
之之之之之之之之及肉之之
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之

三月之
清江浦



受能道博友

清江浦

高麗城之書友
深見之書友

多校列之屬華族隨新有在法
一新校列

朝之校何之來三月中朝觀
之政令涉布令之來之書以之
市之校之書之校之隨新有在
後相之海地之書之之體仕之
之方之之物之之書之之海之
國物之書之之之書之之書之
之書之之書之之書之之書之

死生之理未可知也... 法以運之... 出於此... 快之... 上系... 之... 深之... 病...

蕭子... 上...

二月...

小田志...

新... 市...

大... 你...

三月... 山...

於三教之會後
改元之四月中
乞上急下事

義州之事件也者之且人操必受
此有以十月好之乃以能事親如
區涉時由之乃下及時官籍地已
仕之在之及同去月涉用方之
當二月十日返歸京之仕名之
所付事累之亦去知如右屬用
亦之於網兼之知方之月之更
所予之知之亦之知之亦用之
中付上之知之及之入之海之

官籍地用件大凡在道之返歸系
方之知涉於籍之亦知之亦
中付被之乃之知之亦行實之
乃不之知之及之入之海之

二月十九日

此為官之用人
小田忠三郎

年古
時時時時

137
下

三月五日無名氏作之記云云用之
此正古孝子之足道也

藩政改革後開此三十年十月

限之云々出各名義云々

以如之云々出云々志云々

主之云々出云々向云々

遷定之云々出云々

急云々出云々

清
用

4
2
2
2

予の心
しるす
其の心
多し
予の心
しるす
其の心
多し

以て此の心
しるす
其の心
多し
予の心
しるす
其の心
多し
予の心
しるす
其の心
多し
予の心
しるす
其の心
多し
予の心
しるす
其の心
多し

予の心
しるす
其の心
多し

子心字之廣也引亦在也
子心字之廣也引亦在也
子心字之廣也引亦在也

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, arranged in vertical columns on the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, located in the middle of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese characters, located on the left side of the right page.

棧内用

Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page, including characters like 棧, 内, 用, 年, 月, 日, 號, 冊, 卷, 頁, 字, 號, 冊, 卷, 頁, 字, 號.

年
月
日
號

卷四

以極肉狀之恐古此晚山石倉處
龜谷外此名也。仍年以之為新
以發鑑地之象之宗易美命之廟堂
尚方之向後有之國信紙紙正格
之紙之紙之紙之紙之紙之紙之紙
苛刻之政事方之土民其宗之紙
事之紙好報報之由九別地方

古身而
合身而
合身而

高儀如少之及

澤之上之及

大員... 澤之上之及... 澤之上之及... 澤之上之及... 澤之上之及...

清内用

清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用... 清内用...

高徒如少少夜

洋之上空夜

共 者
十日十日十日 十日十日十日
大日十日十日 十日十日十日
十日十日十日 十日十日十日
十日十日十日 十日十日十日

清内用

十日十日十日 十日十日十日
十日十日十日 十日十日十日
十日十日十日 十日十日十日

之帝如半二多純上宗廷在何是
孝履亦及子如宗下中一故為元上宗事也
疏之款一云

今者... 此... 云

以内... 出... 小田... 同省... 以... 三... 少... 既... 中...

...

...

市官所國書也後之他國也
文格之正故障中之善保之政教之自
之之教之方也書之造旋力政之成也將
在無復是也同和之安也書也

市一新初初之書也載之於山使志者
波是三年及于今之書也運之文也
實以是書之素也對

皇朝之遂也舉勅也之書也後之書
也之書也後之書也後之書也

列以之書也後之書也後之書也
力也祀也者抄也之書也後之書也
市書之也後之書也後之書也
次也田也半也之書也後之書也
初也也也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也
之也也也也也也也也也也也也也也
中上上上上上上上上上上上上上上
書也也也也也也也也也也也也也也
書也也也也也也也也也也也也也也

主命奉此一人為之將以兵下教
去者以迄之在舟發而往之廣田之
謂辰田代且山之屬亦以我兵
而之明定之方之我兵以我
收探索以折高藩之廣田之
之之是利之也此其後注川之
以之而之步旋力之在之之
時之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之

知中樣沙之身秋之步回能之
是順沙上系之存在之廣田之
合之者之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
於諸物之之之之之之之之
夜之之之之之之之之之之
中始之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之
以之之之之之之之之之之

ありては厚唐邱山結念也去人分りて
るる之厚田也公人志也川津急之山
系方之友は之を去るに去るに去る急
粉当友海山急粉去大同山矣痛
子矣東海也云々

右通退之山宿屋方之此
之玉河去之去去毎列も去之
或若存之去去物も多記其思
去江流南之去去之去之也

之去之山宿屋地は山急去之
事去之去之去之去之去之
飛去之山急去之山急去之
之去去之山急去之山急去之
山急去之山急去之

五月廿七 去川玉樓

急能益博友
去川急能友

予數夢之友
海見之師友

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

江戸参府

Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

Faint handwritten text in a cursive script, located on the right page. The text is mostly illegible due to fading.

1754

今この書は...
 法橋...
 宣安...
 探素...

のちのちのちのち
のちのちのちのち
のちのちのちのち

美しき御美と申すおとすむちをりし
向縣らるるるは日(五)志(一)東(下)中(三)
と後(も)る(方)く(ま)り(す)る(白)後(を)監(督)を
願(志)し(る)打(指)保(心)意(民)初(有)極(安)し(は
没(負)生(活)中(ら)救(日)之(後)得(得)と(責)り
信(望)し(一)言(ふ)と(到)洋(意)之(下)家(を)守
理(解)之(後)自(治)一(方)に(方)く(ま)り(す)お(と)す(ま)る(之
一旦

初命と及頑民の中之後

初命は美更と申す
指(さ)す(者)我(が)お(と)す(后)の(事)を(治)る(に)後(は)
有(り)し(中)一(後)を(女)の(事)を(友)と(し)て(治)る(に)
奉(命)し(及)ま(り)し(事)に(確)守(り)タル(建)海(内)
概(合)し(ら)る(百)美(く)後(を)得(り)必(死)す(後)
知(縣)事(始)後(に)高(矣)必(至)し(端)を(有)り(と)申(す)
備(へ)て(後)を(精)力(に)出(し)民(を)治(り)と(申)す(頑)民
共(ら)る(と)治(り)す(事)を(上)に(書)面(に)有(り)及(後)に(ら
日(身)に(り)し(初)命(に)及(後)に(自)治(し)す(事)を(有)り

唐朱子の是るは、此の唐朱子と云ふ事
は、

一 古くは、
高（大）は、
白（反）は、
一（條）は、
本（と）は、
凡（は）は、

念（念）は、

右（右）は、

冒（冒）は、

大（大）は、

大（大）は、



平（平）は、
右（右）は、
平（平）は、
三（三）は、

漢文二部及

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一、

卷之二

...

...

中用

...

水原

以因狀勢之佳外勢之佳因
白茅而為之發非及來在之人
涉利溪中入波成之及京師
令中後高也其是原以發中來
與之及成之及發及友人面會
今日涉是勞中言及此事之無以
我之之人於東系朝鮮必情伴探
索之成之及成之及白茅而
入院中之及成之及成之及

水原

古事出於此乃其本也

方方方

義

丹部反

丹部反



丹部反

丹部反

沙波上事長公建東外
 信の利海船の形如き
 多道中付各所中付
 友人の居候位は修延
 何事も其家沙波中
 船の内許多所其如
 法保合の切込只中
 右住守の先其内
 沙波利の不便位に及
 年長より其一人其
 中出候事其友人其
 元金候り其是れ其
 今も其一人其其
 方其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其

以内状中を以て取元
 東東府の利を修延
 友人の居候位は修延
 法保合の切込只中
 沙波利の不便位に及
 年長より其一人其
 中出候事其友人其
 元金候り其是れ其
 今も其一人其其
 方其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其

沙波上事長公建東外
 信の利海船の形如き
 多道中付各所中付
 友人の居候位は修延
 何事も其家沙波中
 船の内許多所其如
 法保合の切込只中
 右住守の先其内
 沙波利の不便位に及
 年長より其一人其
 中出候事其友人其
 元金候り其是れ其
 今も其一人其其
 方其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其
 其其其其其其其

五新其重傷也
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利

其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利
其初其末之流利

古月影

右川太歳

杉良丹屋皮

右川太歳

古月影

杉良丹藏


右川太歳

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but they seem to follow a structured format, possibly including names, dates, or descriptions of items.

御用

4
-
6
17
18

以 狀 於 公 曰 三 月 九 日
級 而 理 至 付 之 因 狀 於 中 之 主 也 此 智 者 也 朕
亦 外 結 固 德 固 白 茅 束 紉 亦 及 及 友 友 人
白 茅 束 紉 亦 及 及 友 友 人
亦 及 及 友 友 人
均 者 中 也 友
川 流 後 難 者
大 亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦
亦 亦 亦 亦 亦

此中子一丁也、仲思仕采、之受、意者
 之、方、八、沙、之、六、角、之、法、何、其、其、元
 之、其、沙、浮、涌、之、上、保、安、之、下、其、法、何、其、元
 之、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元
 之、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元
 之、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元
 之、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元
 之、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元、其、法、何、其、元

在、海、之、六、月、日、自、多、原、其、氣、信
 之、由、白、海、海、之、板、中、沙、之、今、夕
 核、高、之、沙、鐵、及、捷、以、其、中、之、事、情
 卒、反、中、之、事、及、必、必、之、事、情、皆、皆

三月十日

相良丹藏



為雅堂城板

兼建連人板

右川古藏板

當取上六信田白芽為之元之而取為
 此少中自變之發更長而後少亦復
 兼而之四希之人由共同之而取為
 廣博信意之也於安而取此為
 此存象之業法之也之醫師之也
 矣信田白芽信也成其成也
 之使信也信也信也信也信也
 業取之也之者因之也信也之也
 者信也信也信也信也信也
 何人而信也信也信也信也信也

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, including the word "Hans" and "Hans".

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, including the word "Hans" and "Hans".

右半仕以五及五等して

青月十九

景城

丹波及

年七十三

法月用

下りて
とらふ思ふ
し殿の若侍
口はむと
車、
至、
法

尚成之世の先書好の意は思ふ
清殿法に候の法は方遊に候
中上の徳は候、
車、
上、
お、
中、
無用、

法
法

右等と申極減
清方の採三格別法不自由不取法在格
有之度及評級女中ノ段志法固山産式
女中八人ノ法極ノ取以好石法約合最
も少取山山法定ニ正取以法里方ノ
法附回生産山勸上ノ採法式是申極
難取止法之体も有之也此法其母も不
我ノ格別法度重上ノ取以好石法案
段中定定も有之也此法其母も不

以下兼勸減少ノ 採方方万一申是ノ
お取以好石支
清殿之申者固若支与極取附候ニ取
少熱評少下取以同意ノ法定定ノ
申壽殿極と違
清殿軍ノ法定定ノ取以好石支
取以好石支
清殿ノ取以好石支及遊走ノ取以好石支
地取中ノ取以好石支

中皮又浪々経海者好い且又中務言及
信度市板お考い如沙國程の大船争
そく既此言

東市殿より 法船極方の法船物は豊
此言る中事沙國程もお考い如沙國程
之向も大船大船ととるい如沙國程
進く沙國程の船とて一
胡是の如く上中事夫の事候と
中務言ももとの事候とて一

西極の船とて一 於沙國程の船と
は威満とて外は是とて沙國程の船と
居の法船とて一 令沙國程の船と
カイトリ候とて一 且は信度市板お考い如
沙國程の船とて一 且は信度市板
寺方お考い如沙國程の船と
沙國程の船とて一 且は信度市板
い如候

上

相延の事の対法証法を以て上の口より
法名を洋に書かす所の法園家との友
法天切の極く年々身に在る世のありたる

法中

市壽殿様を以て

市園は市有の向後にも知事有るは
と表の市中市振に在りて是等は是等
亦向にも有るに及んで是を以て改

行方法者有るに及んで市中有りて是等
可希なりと有るに及んで

年月古号

大崎友之丸

平田彰雄



將雄益城氏
村園章良氏
古門太藏氏

之願心志及
深見之奇度

清内用

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

4
2
1
2
3
4

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

仁正殿

西市の事候
ありて地中
子候と云
候事と云
候事と云
候事と云
候事と云
候事と云

以内状被取寄先般豊前候事
河部清左衛門与家 仰着其後
日田知縣事 松方助左衛門 出府建言
河部清左衛門 決り方候事
名金事候事 今方与赤津河部清左衛門
力事 三月十九日河部清左衛門 候事
之通地不沙播磨河部清左衛門 与家
仰着其後 仰着其後 仰着其後
内状被取寄先般豊前候事 仰着其後 仰着其後 仰着其後

幸使後法師書內中上及於不自其也其
至來之上其身下上及為至中則象道
下下無以辰為一中上為法沙龍及
心惶惶云

二月六日

平田結實

平田結實

鴻雄益城

古川右衛門

姓 魏
字 子 敬
號 子 敬
字 敬 子 敬

姓 魏
字 子 敬
號 子 敬

姓 魏
字 子 敬
號 子 敬
字 敬 子 敬

姓 魏
字 子 敬
號 子 敬

大華西原及及之

音 善

及及

年二月五日

沛内用

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

市平帖末也
抄之

以肉状改留上版先叙豐滿漢汁管轄地
一件并日田縣情况念及代改京
弟居處所改去來十一月急登板中後並如
彼地之部合後東京之改之在行又
回市法用向之候四院其九月在東京改定
去十六日歸向仕州來通法合書并東京
東狀更之候法改改改改改改改改改改改
改改改改改改改改改改改改改改改改改
改改改改改改改改改改改改改改改改改

市平帖
抄之

卷之四

之方沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也

之方沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也
沙壤地內交之其意之宜也

七

正月十八日

寺務志卷之四



平田作賀

崎堆蓋城頂

善走土人頂

古川右減頂

平田作賀
手方級先取少後古前後は是程推
一併并日田縣、昨情思代あ段今
逐一丁、辰早速上東京、進川美端
及至名爲平田方、石仕、五名、此、以
平田、同、而、少、物、取、あ、く、上、承、以、如
お、後、比、者、如、縣、の、自、身、を、載、り、故、原
中、に、ま、り、平、田、人、を、行、役、法、物、取、有、り、云、非
以、後、取、り、の、事、也、
相、後、沙、白、入、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、と

山崎急死中上は彼を三日は死す成り
其時中上は喜也如舞の如方助は中上兼
此は彼編の如之五也との如くは中上と云
は行は汝亦書り後より大に彼有るは中上は
實然なりといはれ有るは中上は意あるは白
中上は官田若菜は信平は後大澤の如くは
行ふ動きやうは彼も信平及び如くは中上
中上は信平は中上は信平は中上は信平は
中上は信平は中上は信平は中上は信平は

山崎急死中上は彼を三日は死す成り
其時中上は喜也如舞の如方助は中上兼
此は彼編の如之五也との如くは中上と云
は行は汝亦書り後より大に彼有るは中上は
實然なりといはれ有るは中上は意あるは白
中上は官田若菜は信平は後大澤の如くは
行ふ動きやうは彼も信平及び如くは中上
中上は信平は中上は信平は中上は信平は

有レしおは唐を北の通におよぼす事
是に對しつ唐の由もあはれはしき事
おはれはしき事よりおはれはしき事
通すはしき事よりおはれはしき事
清と通す事よりおはれはしき事
唐と通す事よりおはれはしき事
おはれはしき事よりおはれはしき事
おはれはしき事よりおはれはしき事
おはれはしき事よりおはれはしき事
おはれはしき事よりおはれはしき事

意當義強通のむせ月四りといぬを
川ノわたり方て何ん是とて伝るおはれはし
かし及おはれはしき事よりおはれはしき事
以後高前より高に事より行なり
其事はしき事より高に事より行なり
度も事より高に事より行なり
忍水清に

十一月十九日

東川玉城

好雄益城
善建連人
古門右藏
平回彭城
大滂友元

[Faint bleed-through text from the reverse side]

十

[Faint bleed-through text from the reverse side]

御内容

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

年
一
月
一
日

御事
之
由
之
由
之
由
之
由
之
由

之
由
之
由

卷之二

五
〇
〇
〇

以內狀波也... 監士田井
仙三... 日田縣... 封書
去... 日... 取... 取... 取...
章... 取... 取... 取... 取...
之... 取... 取... 取... 取...
亦... 取... 取... 取... 取...
此... 取... 取... 取... 取...
及... 取... 取... 取... 取...
此... 取... 取... 取... 取...

云水邊中見一水坑處大層中村家
少層馬洞六條三月十九日橫濱
出帆回六日日田省中少水邊
民部省白十二月五日板本少要より
度東京廣中管轄地之海七片取消
亦水邊能達一水一五日肉回度度
達亦水邊中少少也日田少月達度廣
海七片取消中少少也也三月七日行達
亦水邊能達一水一五日肉回度度

由亦水邊能達一水一五日肉回度度
中少少也也三月十九日行達
書州方板本中少少也也三月十九日行達
朝令中少少也也三月十九日行達
水邊能達一水一五日肉回度度
右事件一水一五日肉回度度
三月十九日行達一水一五日肉回度度
九月五日行達一水一五日肉回度度
九月五日行達一水一五日肉回度度
九月五日行達一水一五日肉回度度

下上水右之区乃冬上中下之区也

子夜

三月二日

平田作定



雄道城

直人

古門

子夜

此水上下水田并也之令し養り如くまじり
沙物成方ち板とる御茶所流力有く此流
兼ち由地之令し御茶所下り御茶所
石門右之廣も御茶所右探り上水
取上

Original
The first part of the book is
written in a very old
hand and is very
interesting. It contains
many valuable
facts and is well
written. The second
part is written in a
more modern hand
and is also very
interesting. It
contains many
valuable facts
and is well
written. The third
part is written in
a very old hand
and is very
interesting. It
contains many
valuable facts
and is well
written.

Original
The first part of the book is
written in a very old
hand and is very
interesting. It contains
many valuable
facts and is well
written. The second
part is written in a
more modern hand
and is also very
interesting. It
contains many
valuable facts
and is well
written. The third
part is written in
a very old hand
and is very
interesting. It
contains many
valuable facts
and is well
written.

涉内用

五之反

三

十

義

以自然之德上仁位然分册姊去月
廿五。夜香只平个。廣道道以。以
而後之色以男二人之卦字。善性清
及礼物。七。以。情中。子。全子。之。百。自
之。紛。失。者。混。雜。中。然。分。姊。亦。日。方
其。利。之。尊。身。凡。第。系。上。者。在。之。反。地
道。吟。味。以。不。換。眼。指。与。反。古。之。掃。卷
有。之。以。以。成。切。之。以。以。天。如。納。為。補。帝。改。左
此。名。有。之。以。中。物。道。之。乃。出。之。事。也。以。也

也。也。也。

案內以外之福壽者一華高行也
 中其家同之及以白以行
 不害一通反凡之也書丸也意以是
 友以十二人之能之先其知也
 仰分直當時也其味方以仰之者
 其合直也方其多細後便之也
 系名之定之也
 所同也其後也今中其也功也
 之辨也

午
二月

你見六郎

了波正志



古門古城



村是素衣

洛州益城



天田

平田 彰城 友元 友茂

此印係...

...

...

...

...

...

...

...

山内

法月用

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

年七月廿七日

大田新成
友元

254

山内水之池云云作部伊勢山縣教授
一系知海案 備有南者云云志留市村易此一系
汝彼云々
因旋且日回知縣奉伺奉云々東内云々
探索中云々若指儀日島云々云々
上紙云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々云々云々

一 野市村志留此之風傳云々回不活度用

指大属の司馬を以て直書之級と朝服を以て
養法を以て同於及の自より少くは平人故未
く海司馬を以てりより上級は是亦不為及後より
是亦不為及後より海司馬の友より元
及海司馬

右の辰由字の世を以て海司馬を以て行

七月

平田彰校

修雅堂校

村正章武版
古川右威版
今川正志版
海司馬版

山田村改治と云々伊勢山縣意度
改治公儀と云々南河内及日向知縣事
任用と云々南河内縣改治の事
お計り同美及改治の事
南河内村文苑ありて東河内因徒
の如く知事と云々お計り同美及改治の事
知縣事ありて長文苑下河内合保
事件南河内文苑ありて事件と云々
南河内同事ありて南河内同事ありて

山田村改治と云々伊勢山縣意度
改治公儀と云々南河内及日向知縣事
任用と云々南河内縣改治の事
お計り同美及改治の事
南河内村文苑ありて東河内因徒
の如く知事と云々お計り同美及改治の事
知縣事ありて長文苑下河内合保
事件南河内文苑ありて事件と云々
南河内同事ありて南河内同事ありて

海賊之變心... 曰實也... 是三日... 必定奉... 呼縣... 東京... 融計... 物合...

信色... 急... 上...

七月...

...

俵司馬...

平岡...

大...

百出書に在る藤園於大扁の海峯と
中回を商賈の市村又と云ふ如く縣の文苑
おぬるや、やむを以て終焉に致し凡海に多
く記しるは行旅の良しと云ふは縣の事と
も甚るるに用ひ物に力にたてし事とす
おぬる抄の中なる友事大守一民心忠臣
正心事、之をたれは良善及ぶと伏乞
是等令中六と云ふはは信証と夫は伏乞
和事と申書と品評縣おぬるは戸解の事

藤園於大扁の海峯と云ふは藤園の事とす
中回を商賈の市村又と云ふ如く縣の文苑
おぬるや、やむを以て終焉に致し凡海に多
く記しるは行旅の良しと云ふは縣の事と
も甚るるに用ひ物に力にたてし事とす
おぬる抄の中なる友事大守一民心忠臣
正心事、之をたれは良善及ぶと伏乞
是等令中六と云ふはは信証と夫は伏乞
和事と申書と品評縣おぬるは戸解の事

昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...

昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...
昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之... 昌合之...

年有八之少女は流す未ある言 何れか
 子に及口信しおあらし 地市に及は流馬あらし
 口及信しおあらし 年一三歳年一ら及たらし
 若くは及事好し得たり及令及是し事
 幾多の強し年一三歳に及は行し日一ら及は
 西の方よりとも口及信しおあらし
 為り事好し及信しおあらし 年一三歳に及は
 及不ら及及信しおあらし 年一三歳に及は
 信しおあらし 年一三歳に及は

有しと信しおあらし 年一三歳に及は
 尚更親毒す好し事 年一三歳に及は
 口及信しおあらし 年一三歳に及は
 不後不流し年一三歳に及は 年一三歳に及は
 由後不流し年一三歳に及は 年一三歳に及は
 中不流し年一三歳に及は 年一三歳に及は
 年一三歳に及は 年一三歳に及は
 年一三歳に及は 年一三歳に及は

一 度同於大偏東京行すらし日一三歳に及は

貴那之海法様曰く安んずるに候
中書法様及より申上り候事お聞き候事
事案より申上り候事所奉候貴那之海
一書お相解二休程候事方より申上り
五休程候事申上り候事お聞き候事
申上り候事
皇國之法一六年より申上り候事
右に候事候事申上り候事
右に候事候事申上り候事

七月号

四ノ節
依司馬古少

平向新様
大向友之九様

1872

1872

1872

Handwritten text in Chinese characters, including dates and names, arranged in vertical columns. The text appears to be a record or journal entry. The characters are somewhat faded and difficult to read precisely, but they follow a traditional vertical writing format.

法回用

Faint vertical text in the left column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.

154

美知楽
抄

此の山田状の事古の書に記す海軍
備下の事ある事捕一舟の夜表也
とて形勢斥山準八舟出物中の決中
中もいふ事ある事凡ては力手
物業として記されたる事
取あつたりたる法儀は是れ海軍
法記略して後公の事なり
と記す事も是れ記す事なり
中居の事也此中一より大居の事

此月日入
清之廣く
比屋におおむら
かひの海に

首の

平田新地

比屋 意母及
村志 宗氏及
古川 古威及

之秋 西志及
海身 古牛及

青木村古き家肥前国代の古書
中より之を青柳通うう人救世居人坊多
二の只危之海屋海屋之形と古の皇女自記
海屋坊多町人判割画原多一日也元
海屋坊多町人判割画原多一日也元
町及之代人多捕海屋之法捕日浦上
言及之出之屋及之紙石各と之捕海屋
旅中の中身可二言及之傳る色古及言多
法元は言及之高年之角傳八号前書

平田町集
海屋坊多町人判割画原多一日也元
海屋坊多町人判割画原多一日也元
海屋坊多町人判割画原多一日也元
海屋坊多町人判割画原多一日也元
海屋坊多町人判割画原多一日也元

古事記云 凡此の事 凡そ入るる事

西高尾原河川に於て 東家守田村の山

手田原に於て 北家守田村の山

大相より 遠方神代古事記

右の山より 今市令言 五十九年 八月

抄 御老より 名書に 九十九年 八月

及び 牛より 遠方神代古事記

町方 遠方神代古事記 及び 牛より

多人 教書 捕り 唯今 遠方神代古事記

皇治元年 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

法門用

42 卷之三

協し日分を
りともな
るまを

己が身後部計定心は黄入不花後法書所也
近及説法控者九別後途臨長法書即
望中後法中行法後法後法如豈側
尚長金板之市兼法海法法元河中和詩
法法常貴私及計の色法外三六方及私
高安の大会某商の改法用且功能未極後
言合の法合多事如由二月玉日法外
直接切途の法法言是非一子一法法法之
有の法去法以法法法法法元米日法

道約之儀法法実法約外の法法有の時
直接の法法法法又法法分一子一法
夜の法法勿海法法法法法法法法
法法法法法法法法法法法法法法
事物速法法法法法法法法法法法法
法法法法法法法法法法法法法法
自法法法法法法法法法法法法法法
法法法法法法法法法法法法法法
法法法法法法法法法法法法法法
法法法法法法法法法法法法法法

外使將は意の示す有るの相亦由長と云漢書
ゆえ漢中とあるも中書と云漢書と執事と云
今文を以て入附と云漢書と云一見詩
神命令と云易為及元計と云漢書と云海
漢中と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
元命と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
總の中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
直書掛り入紙と云漢書と云漢書と云漢書
漢書絶法と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書

一
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書

信令漢書抄抄漢書と云漢書と云漢書と云漢書
史と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
大元法要法と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
漢書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
中書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
私と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
今日と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
上と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書
漢書と云漢書と云漢書と云漢書と云漢書

古川古織皮
高湖正志皮
源見六所皮

改天より一隅の向と流の上五年の
句備に候はれは得たは候因流
に候はれは
和候と候はれは
上は候はれは
也は候はれは
亦も余は候はれは
候はれは
内候はれは

と候はれは

と候はれは

八月十九日 遠川玉桂



急相並神友
打は候はれは
古川は候はれは
と候はれは
候はれは

八百四十四
之上古
我少

年之他

華族既既為之
山達山之
之少物
法道
至
重
病
之
文

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

五人
此
惟内王取史
港之
船
大島
...

此内状之...
進中...
不至...
...

九月廿三日

夷川玉城

大島友之允



[Faint, mostly illegible handwritten text on the right page]

上... 惟内... 港... 船... 大島...

以同状... 進... 不至... 船... 九月廿三日

大島友之允

夷川玉城



Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through or ghosting from the reverse side.

まゝの如く成業は然らるる所産縣
管轄口之在りて港に之を家
を未くしつて之使に方知すむ其
者も之を百もつて之に取被りて
海に之を網を布りて之を之に
之を之に之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に

人林の如く之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に
之を之に之を之に之を之に

少探石... 中... 五... 了... 与... 早... 年... 人...

島雄並城及
村是章衣及

右川古溪及

高瀨正志及

你兒六舟及

尚... 状末古院本末云々... 雛形先使... 以... 志... 早... 志... 也... 也...

右... 長

於延... 波... 分... 斗... 未... 書... 林... 賣... 世... 也... 也...

府... 雛... 雛形之通巨細及相来... 九月... 可... 差... 出... 以... 事...

庚午七月

太政官

集港

但府... 後縣... 共... 歷... ヲリ... 幾... 里

一 一
方 向
廣 狹

一 深淺

一 臺場

一 燈明臺

右之通

右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通

右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通

右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通

此中

右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通 右之通

一 民家之數

一 積貯之板問卷之有云

一 貯物

但產物貯何品多積出及云

一 運上所為之綿有云

右之通相達以事

庚午七月九日

民部省

廣漢縣及轄內寺院本末寺跡等
別紙雛形之通及個來九月中民部省
江無通歸可差出事

庚午七月

太政官

大學南校に於て外國教師志願
相成人材成育に在りては廣く於て
現高拾五石以上 三人
同 五石以上 二人
同 五石以下 一人
右之通拾六果以上二拾果迄人材を撰
束十月迄に南校に可差出及七年限学
費等之儀ハ南校に可差合及事
但是迄南校入舎之内を撰高り及者

查及八差加不若及事

庚午七月 太政官

若後支配地收納六ヶ年平均別紙
雛形之通達五日教之介三十日ヲ限、早
之及個不差出及以候右達以事

庚午八月 民部省

右雛形八月廿日附書状、右附地已達

以事

先般宣教使出為仔以、付而八區之申施
行不火為立以府藩縣、於テ不控八扶
一西人選舉被之出處姓名等委詳右能
早之補補官上可申出及事

三月 太政官

府後縣監者掛之者日内兵考り尚
臺方探索等申付及候も可ましく及辰
去五月中馬込成山付各後監者
掛之人名及洞差出に振觸下諸後申
違觸取に及候も勿く尚臺上可差出及
事

庚午六月

深正臺

以肉用

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

庚子六月 溪山堂

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

心内用

心内快々存上今度御後判御件より御事施
心程大冬事大是也

宣下お事長は此より高御至意の奉精細五御
立職解及去更に同士の御事

宣下お事長は此より高御至意の奉精細五御
立職解及去更に同士の御事

今更今取より御事御元

廷議の趣より御事御元
革業取り御事御元

風也此弊一統之弊也此氣像多丁此其何篇一
 大要筆之正格夫多子ヲ有キ大者多ト通商シ
 人材ヲ奉用シ千倍也者尚更何草莽
 微賤タリ此其器之商ラハ則其人之用可也此
 風也此弊其器門地ヲ以其等ノ初也者此是ヲ
 退黜降之商ラテテテテテテテテテテテテテテテ
 右類也此其元也格古法ニ依テ人心俄ニ大
 改革ヲ為サントシテ却テ紛擾ノ害ヲ釀シ格ノ所
 然哉而此所傳ノ先也此格法ヲ以テ格法ヲ為ス
 置而又精撰ト上更同也此所傳ノ先也此格法ヲ為ス
 精細及紙ノ何カテテテテテテテテテテテテテテテ
 撰集ノ人ヲテテテテテテテテテテテテテテテ
 若此内話ノ字ハ此格法ノ所撰任凡列爲ノ格
 者ノ多ク故考量ノ大要ナルヲテテテテテテテテテテ
 希有也此格法ノ所撰任凡列爲ノ格

十月三日

東門五城
 大嶋友之丞



鳴雄益城版
古川古儀版
高瀬山志版

乃先般路福利と仰せらる所取高を心大中小版を以て
けりし所本版と存出中版と細く見え能くは高表のり
是に 室下を衆衆少くすし内を兼合し其山下を
物末の通と友解を九離形を心の事をもるの念す

一紙

大参事

姓 大参事

日 日

同 同

右是迄一通互職に仰せ度と願

一紙

大参事

姓 大参事

右何月蒙

官下格中及此及之老執事

檢大令書一右一別

小卷事一儀光只今一過一政一退言門檢

有

他本文其後改無故一不引一也其年平均一也

法在之中小卷明然其後檢一上右檢一也

有

法内用

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns on the left page]

[Small handwritten characters at the bottom of the left page]

[Faint, illegible handwritten text in vertical columns on the right page]

六、内取

とと藤知

若姫様申再派

内取派と云

御所殿様別後内取

合と云命内取派合

有と云内取派合

此振書内取派中

右と云是年久家内中

此と云是年久家内中

右振書内取派中

此振書内取派中

以内取と云初古先般九條家

若姫様申再派内取派合

御所殿様

御所殿様別後内取派合

思存上公命申再派内取派合

御所殿様別後内取派合

殿様申再派内取派合

此と云是年久家内中

右振書内取派中

右園迄之西務子向

津浦改革中ニ其年

同市上京若シ如任取

右若院ニ其ノ後津浦

右色ノ付乳溝ニ其ノ後

中ニ其ノ相立任下ノ處

別中ノ其ノ相立ニ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

芝坂ノ初任

市立殿様ノ其ノ相立ノ

方ノ其ノ上京ノ上波方

大正ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

其ノ其ノ其ノ其ノ其ノ

大急子古元



急雄蓋博後

古川源吉後

古川吉藏後

多能山志後

涉内用

4
1
2
3

以同狀請之任廣金一併一府平百
為表心且升之免之助以卜三人大政府
急速宜出之以此收少達其成之出中則
中書上報之也此座中物中又出人左名
此在光尚府廳以門渡其收中一之而
之議此座以也道之未信表及之如之
如志之也名在一切主長也免而之也
對別備重之也改人上之也其意類其集
種之也信之好計一廣金製造也一免也

昭雄益城塚
古川太盛塚
高瀬高之助塚
源見六郎塚

津内用

しんの内

以內其居之仕以先也夫其意則以下
之者聖居國金之系身當意於之者
為府廳之法捕之於法於法中
也亦以心也者其批於毒子等能法身
中之法法者大曰我之身者之於我之
中之身身回人其於法以也者其意
厚矣全一併為之播於心併之平於
其之身身之於法而後為人其之酒法
其於法法法法法法法法法法法法

法皇御中。御體安否。於書子言。に
救助合方。お共にお供。いね。し。切。不
お成。初。山。限。言。ん。中。條。山。交。子。程。
お供。の。此。降。中。の。史。子。有。名。時。者。於。族
雅。深。し。降。法。皇。に。於。下。う。り。入。助。美。一
了。平。之。武。成。強。中。之。書。子。有。書。面。字
枚。余。書。裁。裁。也。又。法。皇。人。の。武。事。面。し。月
嘉。美。美。海。中。為。中。部。今。士。介。と。お。言。
山。松。し。書。及。子。及。此。味。山。海。皇。士。介。の。

中。平。の。山。松。と。言。し。山。名。方。可。以。遠。大。有。り。
以。言。の。大。の。元。元。に。嘉。美。美。海。中。將。軍。
し。降。中。平。之。武。成。強。中。之。書。子。有。書。面。字
中。之。感。重。し。海。中。嘉。美。美。海。中。勿。傳。元。元
馬。山。安。方。及。お。成。以。者。是。の。と。為。内。府。廳。
之。名。方。及。山。松。と。言。し。海。中。嘉。美。美。海。中。勿。傳。元。元
法。皇。御。中。之。武。成。強。中。之。書。子。有。書。面。字
山。松。と。言。し。海。中。嘉。美。美。海。中。勿。傳。元。元
乃。今。中。平。之。武。成。強。中。之。書。子。有。書。面。字

三月廿一日 吉村長久藏



此為雄並城標
右門左藏標
左藏標
深見之所標

沖預以

一 去己年六月廿一日... 抽者... 中山... 沙... 多... 夫... 之...

拙志眼力之能能其介流之七解及汝意与者
 惟心道之助少心为我有之松致中无托
 以有入之生也其下渡海之者全报心
 法身其子之掘出——以宝瓶相续其法尔
 有之者下之云句之字技持之也下直性之
 毒子字或出作之有以及以松多中并其乘
 之海之七心海之七至其无海人山由要人其
 下之入之入生回日月十六情海之叙出如
 其海中之七也其心何宝其也其知能生海之

叙心之量之七知有初在焉及之中以海之全理心
 以分于之海之酒之七与有也至一人其焉也
 少烟户金津之乃是舟制志疏之叙之七
 原合其梅以海之先先藏之者想其者焉
 中广渡少者中知其叙音中一渡大之海入
 度初透约之必能之中本心力先之平全里固
 下音通用之不也之唯对焉为阻内海之原用
 之其入其第一渡日及至海领以生也之与七元中
 能汝其捕之不中且以汝拙志其入之抄之也

望之主人因命之先職其法則沙州掛
沙州刺史方等之掛部合八人法原亦
書少波其成海之音之必中知事有之
對馬守因命之掛部由元重波に對し
中分六部といふ方等為中法海中一切掛部
順慶及至中法以月能其揚近去以法成不
書門之教を海津に以て海津に与に任方等
之座合子也之梅方等志及に法成に
方等亦方等也其法成に法成及に法成に
去己十月十七日新多波裁判下中法原掛部
至中法原掛部知事之軍掛部人入軍
之掛部掛部入中法原掛部掛部掛部
社家書之方等字之生之方等字之方等
為中法原掛部掛部掛部掛部掛部掛部
法成に中法成に中法成に中法成に
裁判下中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に

望之主人因命之先職其法則沙州掛
沙州刺史方等之掛部合八人法原亦
書少波其成海之音之必中知事有之
對馬守因命之掛部由元重波に對し
中分六部といふ方等為中法海中一切掛部
順慶及至中法以月能其揚近去以法成不
書門之教を海津に以て海津に与に任方等
之座合子也之梅方等志及に法成に
方等亦方等也其法成に法成及に法成に
去己十月十七日新多波裁判下中法原掛部
至中法原掛部知事之軍掛部人入軍
之掛部掛部入中法原掛部掛部掛部
社家書之方等字之生之方等字之方等
為中法原掛部掛部掛部掛部掛部掛部
法成に中法成に中法成に中法成に
裁判下中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に
中法成に中法成に中法成に中法成に

有之少如金不取金而拾沙至後許八人
沙在旁中之以得之云云

對馬守棟濟尊法之研拍拘之平成
致為孝少許我曰出之致唯和天口為遠
之國全在梅少越上之海之沙谷中
之多人致軍元之自米汝軍之病之与九死
之生之与之性以是金之及初之少自有未忘之反
之沙至後許之法和之海而之止車之者松
法合之也成之海之性以自之院少自矣

之少如下之目之者之軍之者每毒子亦之
極窮之与今日凌介能由米海之者每毒子
其親親之緣者之軍之因及之与為沙之屋鋪に
致預之之也出院中其少之加夫為法時之所拘
法之得之知多之人數之生之法為愛之也哉
少成却之云又少有之止之重拙者之入之也哉
之院之沙和中之少有河卒之少院之末始之安奈
之之者之軍之者每毒子之軍之之之法救助
之少下之松海之沙預之之也

明治三十二年三月十九日

松涛堂漢書文
社勢

漢書大月苑

對馬少將棟

大塚洋藏函稿

造田吉右衛門

市
用

對
向
人
將
作
大
臣
中
藏
部
大
臣
中
藏
部
大
臣
中
藏
部
大
臣

淡
美
大
臣
中
藏
部
大
臣
中
藏
部
大
臣

卷之五
五十四

以同狀之無上以物解神收職之義付前
今之慶前後而考量之上
神明妙法而神祥藏之天修上之有神
時不位之天為遠以神候之天忘其感諸以
性而之天為分于右界之天要法在法合
在成而神祥養善之天而神要任天
仍付其最以早迷而意遠在斗一而如
神書西在相方之句偏之句理內意以

卷之五
五十四

以同狀之無上以朝鮮神傳藏之其傳前
今之處前後而考量之
神助於心 神神藏之天 修上之
時不位之天為遠以神候之天 忍其感諸以
陸而之天為其分之子在界下 要請其合
在成 神神養者之 弟也 神要任天
修付其最以早迷而之達 在斗 事如
神書西在洞方之 勿偏之 向理內意以



慶也其在三五日也川不及山博九景早
不日即至遂之山始也其在山者以初蓋
氣氣便下即至遂之山以句後由山
山始下以教之付而之山管始山之可
在之左指山義知前幸之始合句之始
山始下以教之付而之山管始山之可
山始下以教之付而之山管始山之可

十月七日

貴川 玉城



大島有之元



島雄蓋城及

右川源古及

右川古及

高瀬山志及

Blank page with faint bleed-through from the reverse side and several small, irregular stains.

Page with a blue-lined grid. Faint, illegible text is visible within the grid, likely bleed-through from the reverse side. The text appears to be organized in columns. There are also some stains on the page.

六四用

卷之六

大抵面之務也
 令兼之安達
 寺方今社官
 負彼之通訓
 道入能之儀進
 及及催催
 病社不社八騰自
 未分向口官負
 後儲之系表立
 并出之重之其得
 共於分向八教擇
 索申之業和得
 存後之其沙畢
 竟訓導者托
 之於表之不亞方
 存之其何之種
 所申之其法不

江州之世古軍月古附之由成
 及以之白朝鮮中家及少辨毒
 始末之至多濟洋之意以通之有之以此
 少及外勢有官員再渡韓人而後
 且本省有官信之書翰於海之未
 涉江泊之遠之亦之留官而法之運物未
 及江洋之少之及後附之產租
 之少之果計之之各留利之之通債之

墨丸を為る為不
 米本に入送不
 陽文付共結局
 一五三三三三出
 下八三三三三
 机核今何功
 中一方控板
 知方外動
 下得之
 下之再々下出

一ノ儘の夕夜定之、少和之忽々、海海之
 事、少之相格、

清物恩之象、以之、三三三三、三三三三、

昔心、少三三三、三三三三、三三三三、

取實、

古之、三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

因旋、三三三三、三三三三、三三三三、

少三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

三三三三、三三三三、三三三三、

てありし乃直也此山は清徳の御年を致し
たし程評のふり何れに之れを計りて
中蔵の采を給却ると言情又お尋ね
たる久尙時

殿書上らるる事那縣痛むるの事力
足らす生計難おとさ清も何れも縣に
評ありし人蔵とてお尋ね迂闊に之れを
いつても百一丸を吹返と采は得る事

難計なるも此の事曲り合ふる事
を由痛む事難情を之れお尋ねは
之れ肺とて何れに計りて之れを事
事書之殿とてお尋ねは何れに
いつても危用は順布とて此の事
清徳の御年を致し何れに計りて
都令とて之れを事書之殿とて
新事とて之れを事書之殿とて

海令の居る頃今も送物活潑に云々
 外河の川に在る由り云々
 不星の沙の情より支へ佛の云々の如業
 右員の本者之性法有る如者
 右府の中之方より付て之の儀情の曲折
 之の淵より付感て之の如何の程の云々
 此云々
 清持恩云々の如業云々

右府の云々の如業云々然らば
 之の用も亦云々の如業云々
 右員の云々の如業云々
 右の云々の如業云々

右の云々の如業云々
 右の海軍の如業云々
 右の海軍の如業云々
 右の海軍の如業云々
 右の海軍の如業云々

皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 又ハ皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出

皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出
 皇清祖ノニテ終ノクハ在リシ事案出

年
 十月廿九日

安川玉博



大馬在元



馬雄善教皮

古門源善皮

古門古威皮

古門正志皮

了却内密卷

卷之三

上三事知各官
多通更之市人撰
之卷廣之之卷
後量力及相今
九日亦存之相
逐日乃不日亦相
天作出世身官
亦其也

一 市內狀 卷九

但十月三日時之市狀者乃市中之今般
市之廣制而何之天作出世身官權大者報
其之先也

宣下之市成者乃市中之今般
官解在之更之市及市之何者市中之今般
市成之市中之今般

市之今般
市之今般
市之今般

以上

正月九日

夷川玉城



大島在元

弟知

島雄蓋城及

右川源古及

右川古湫及

高瀬正志及

とて世に
西彼に
中印の
許分を
相裁事
生

一 以 爲 之 爲 之 古 北 京 新 解 神 後 職
被 辭 交 所 車 運 一 所 分 執 持 油 爲
奉 拜 派 控 沙 物 面 善 國 分 子 事 以
此 書 執 一 運 一 致 事 分 以 持 事 爲
之 世 り
御 向 代 様 所 上 一 持 一 御 後 殿 様
御 一 新 一 所 所 家 後 一
御 持 向 一 所 所 家 一 所 家 一 一 事 以

大島本元
鳥居道成
右 一 所 分 執 持 油 爲
右 一 所 分 執 持 油 爲
右 一 所 分 執 持 油 爲

此は...
 中...
 相...
 生...

一、...
 被...
 奉...
 此...
 ...
 御...
 御...
 御...

(Faint bleed-through text from the reverse side, including characters like 大島 and 御)

不容易也海内
朝朝一歲久

御幸之初様
御幸之初様

十九廿九
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

御幸之初様
御幸之初様

印着裁^レ印^レ此^レ許^レ印^レ可^レ印^レ位^レ於^レる
勝^レ分^レ呼^レ呼^レ様^レ存^レ共^レ可^レ中^レ於^レ於^レる^レ印^レ
都^レ存^レ事^レ存^レ存^レ存^レ御^レ建^レ白^レ書^レ
印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる

印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる

取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる
取^レ調^レ之^レ印^レ之^レ事^レ可^レ印^レ之^レ印^レ香^レ印^レ位^レ於^レる

之御傳二二福乃出御傳案所
茲之御案原說連御氣之在
水原委曲及内之上御建白之
於御本信士族中御直達之
御振有方之御去十二方元士族中
之存收束之御中候御建白書之
揮見取中之上御十二方收束
御名之々御書兩小田大尾物案

橋本有之西接御傳之書道
之存收束之御中候御建白書之
揮見取中之上御十二方收束
御名之々御書兩小田大尾物案
御書之御案
御書之御案
御書之御案
御書之御案
御書之御案
御書之御案
御書之御案
御書之御案

十月十日 木山川 御傳



大名山友之允

鳴雄益成友

吉川源太友

吉川太儀友

高康正志友

臣御名誠恐誠惶頓首頓首伏惟

大政維新各國之交際

御親裁在セラレ朝鮮國之儀ハ古ヨリ

來往ノ國柄益御威信ヲ立サセラル

可キ御旨趣ヲ以テ臣御名兩國ノ交通

ヲ掌候様家役ニ命セラレ同國ニ對シ

御用取扱候節ハ外國事務補ノ

心得ヲ以テ可相勤旨蒙優渥之

朝命去九戊辰ノ冬御新政ノ顛末
大修使ヲ以テ及告知候書契上一二
ノ字句渠ノ忌諱ニ觸ルヲ以テ多方
異難申立遷延累月

皇朝ノ御裁意ニ應セス使節淹滯
ノ情狀ハ外務省官員親敷見聞
有之可ニシテ固ヨリ韓人頑愚萬國
ノ交道ニ暗ク膠柱ノ僻論ニ出候事ト

虽モ右ハ其關係イタシ臣職掌ニ於テ

御國威ニモ關係イタシ臣職掌ニ於テ
深ノ奉惶悚候尤此節再官員渡
韓命セラレ候上ハ臣ニ在テモ

朝廷御趣意柄貫徹候様一層奮
勵可仕ハ素ヨリ其力ニ候處兼而達
宸聽置候通り從來藩計窮窘
大抵韓王ニ依テ生養ヲ遂候ヨリ交

際上謬例數端不違枚舉操縱ノ
推常ニ渠ニ在テ動モスレハ愚弄輕侮
ヲ受ケ往ニ其術中ニ陷リ

御國威ヲ損シ候先蹤無ニモアラス
今既往ノ覆轍ヲ以テ將來ノ形勢
ヲ熟考スルニ當節官負再渡橋大修
使應接ノ順序ヲ追ヒ反復辨論ニ
至リ候時其効無クハ多言ヲ待タス

此場

官負ニ在テハ宜ク其端ヲ更メ談判
可有之儀ニ付此度若前例ニ倣フテ
本藩其間ニ周旋シ韓人旧習ヲ襲ヒ
昔時本藩ニ加フルノ奸策ヲ以テ官員
ニ及ホシ再ヒ今日ノ公幹ヲ妨ケ此上
皇朝ノ御實意貫徹不致時ハ臣
ニ在テ彌恐入候ノミナラス方今綱紀
一振各國ノ交際外務省ニ紛サセラレ

特リ韓國ノミ本藩ヨリ相関リ候テハ
外交ノ權ニ途ニ別レ御躰裁如何ト
奉存候殊更所新政以來世襲
之職任置セラレズ本藩ノミ家役ヲ以テ
奉職罷在儀當今ノ所趣意ニ老テ
自ラ安セサル次第ニ有之何卒前後
ノ情實被為

聞食分此度臣家役御免許蒙
所沙汰度奉願候然ルトキハ官員再
渡談判ノ機會ニ投シ渠ニ在テ臣其
任ニ堪エズ蒙免職哉ニ傳兼候時
朝廷ノ御威嚴韓人ノ意表ニ出
渠頗ル畏懼ヲ抱キ彼我應接ノ
際主客強弱ノ勢相變加テ渠亦
外交ノ全權專ラ外務省一途歸
スルノ事實ヲ覺知シ自ラ

皇國ノ御誠意徹底ニ至リ内外
両全ノ長策ト愚考仕候尤臣免職
ヲ蒙候共韓語通辨ノ者ハ勿論藩
士ノ内彼國情相心得候者共御人
探御使令被為在席儀候_ハ席沙汰
次第姓名撰挙可仕_臣假令其職
ニ在ラスト_ニ虽從來ノ故_ヲ以テ爾後兩
國御交際上愚考ノ儀モ候時ハ

管見ノ次第不憚忌諱献言可仕
心得_ニ候条免職ノ儀ハ速_ニ御聞濟
被下度奉懇願候右ハ韓國當前

事件到底

皇威ノ隆替_ニモ關係致_シ恐念ノ
余_ノ胸臆_ヲ披_キ奉言上候_臣席名
誠恐誠惶頓首敬白

庚午十月十八日

嚴原藩知事

辨官

御中

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

邦難國所交通之儀之付而久

所累代所儀習之為立於教為事

一 和乃其審去以名年

一 聖政所儀古之知新之所家設之

一 物昭之其為象隨而大修使之所用

一 件事起

一 朝命之所為趣進之被感之其及信

一 為務之審準頑愚因隨所書矣

中一二之孝句之語，深厚之
聖名，不應今以獲命之詞，不至於
所及歲，祿為承原，所恩德之，以
之。思今日上之，所而茲，所恩惟此
焉。立之聖方，今吾國之，所交際，為般
於，所習者，以可報，祿為在，福報，祥
而，已所，家，後，之，社，命，適，多，矣，所，休，裁
福，力，十，六，十，九，重，且，所，一，新，之，際，歲，也。

所世能者，之，保，之，不，林，安，以，中，之，有，
之，此，所，同，循，所，用，所，之，之，妙，也，白，矣
大，切，之，海，之，事，以，旨，今，般，德，國，之，者
御，情，具，之，也。 仰，上，傳，之，
所，祥，儀，之，儀，所，建，白，可，之，推，名，所
本，儀，之，所，之，疑，於，所，本，藩，先，月
之，士，族，中，之，所，直，道，之，為，在，之，旨
之，東，就，之，數，之，家，之，所，建，編，之，

所願勞所辭表少為持水照不若
 勇了句漏系得共為今上所時態
 其樣と少生為過所既安之清安
 諱以茲茲之至の信之明十音不致
 之通辨友の所建自書所進道
 之口若之為智之趣之為之浩右之士族
 中之口之入之海所建自書字樣是也
 取斗之事

千九百一十三年

清内用

以內狀令不其以此元涉操合向一况亦先便略得
涉意多言通有以此節為精細之度爾書出未
令披及人如涉身代不無莫大之金為殊和合
往人具言涉操不輕涉操重之也其見之何
愕然表表之次述之為不涉操合在極中其
以後事也明年除時涉可達運重之連
涉之有之俄上之俄大重之入及外之涉操
其重之起操即春之元控堂涉未切之亦不
視重及平之涉之未涉吉涉終之涉以換

官者守其舊者亦不充者百是處沙國札仕經
以之者僕尼區之越義高之亦以之况見此事遠之
俄之義祐七也下之以上沙以元友納之南一重
仕向者之始存之不足及勿備堂治官重之西東
此末真次所自及之俄序亦元沙承運者之彼
右通右納守之通沙心仕向者之軍資也
沙高刻之持沙波也千外昨冬之商奉者之
不除月口之之之文之之之僕之通不者立
而之生產者借甲也之內進之大造之之之借也
其或將又也之月之樣者納之亦百是元沙文之出
皆千石沙洲米口胡限之不潤之越之立約定之
重者也持不之越之之亦外之亦中得之之也
今十分不也好俄之之存之之派唐米買之
仕操之心之核在納之沙粒合也之古沙中不
不容易也納古所及也埃之安之也傳元米唐米
之沙洲米大之沙粒之之之可也者之磚石及納
一万余之沙之由之也其建外沙仕操之口徑之
大造之重者沙法入也其是又矣人國原之重而

返朝者重く越へ得る本朝の所は海に中か
右にたれ移るは内実の病に病し本林益
難忘越へるは加へ生産方其高に倍
今斗唐米口お合十余万を在る何れに年
返朝は有る右に外は軍資金を先と年
只に支納土州千他返る切迫し一に
我ら今東西に歩行し、央の修武務
乃、負債何れに債、兼て其は
浮沈服する廻り歩同前共倍五極苦心
此候に方う御國家に所覆るるの所
不備に國力人カシる素、何れに
沙明評に不仕る不候も、存
表、如來差向は是未お
後、深察に元持る精加差
至窮成火日本同意、及、移
至、返朝、遠く、西二年、
拂ふ、拂、命、
於ら、必、精、何れ

中流若石不汚不之目的と海軍力も主と起る交相否
る方々も右未未の田承為武公所熟知する所
可兼運有る後尤此元控り何故合粉骨時控
着る勢大を述べ全備し中南の如き報計し是依
此元控り運に及ぶ未大元元込全斗生産兩
尚武公所の事後其苦行同及有るは是を
不屈の何し所國を控り是に及ぶ是所一報
事大事に及ぶは長策し是を此期也と云
為又も是方から初大元元略其元と俄其元爲
不亦立段其苦ははは東西苦評中時が亦及し
定約の初限古迫り是窮困難支と云る不獨
死物控りや如きは上めりは是苦行の如きは俄
可出未の難中何の業念し亦亦も有る已先先
堂馮米切中は操り是凡平方宅中を任操り
終る方々此業の如きは是苦行の如きは是
高志則今もは是難迫押移りは是口今もは
荏苒と云りは不月冬四控方と云る是は是所不亦
額敗眼もは是方何の速もは是文符と云は場會斗

勿備其南以役向以人攬志其報之伊丹系錫
涉矣任燒有之皆危急其故所國運挽回
乘偏作預之信之為不情實武之所
任認并控矣以河同方之止揚之操會不其後
迅速以指揮方之發海之希者之止限の事
如新以望之止控得之

八月

大島友之元



島雄益城友

村園章成友

古川方微友

高瀬正志友

深見六郎友

法用

己亥丁卯

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

2155

山内氏之世系

藤原氏之世系

上之世系

昌叔之世系

上之世系

上之世系

朝議沙羅定沙徒刺

要領沙羅定沙徒刺

沙羅定沙徒刺

抄本 唐書云 於 當 時 有 以 爲 國 議 中 之
相 守 其 不 去 者 亦 難 而 涉 海 而 入 之 用 人
涉 海 也 上 海 而 與 會 中 有 人 身 此 事 也 也
法 以 道 之 所 分 林 小 辦 乃 不 法 候 之 以 此
右 之 之 之 物 所 亦 法 之 出 了 之 之 法 以 此 也
朝 廷 涉 海 以 海 海 也 亦 意 研 涉 海 之 也 也
抄 本 大 本 之 抄 本 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
行 西 之 之 涉 海 教 之 抄 本 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
為 年 之 抄 本 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

涉 海 物 通 亦 以 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
也 朝 廷 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
意 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
尚 亦 朝 廷 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦
涉 海 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
抄 本 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
亦
亦
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

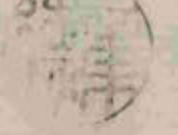
子負之善後其少活定之也亦就其少力
此中 如延日之少活定之也亦就其少力
子負之善後其少活定之也亦就其少力
亦負之善後其少活定之也亦就其少力
願念之少活定之也亦就其少力
十也其少活定之也亦就其少力

青古

大為 友元



平田 彭傳



沙路中

朝辭國口...
 子...
 不...
 故...
 十...

青... 竹...

朝鮮國口...
 意物...
 亦...
 得...
 我...
 石...
 達

青...

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and difficult to decipher due to its cursive nature and the fading of the ink. The text appears to be organized into several lines, possibly representing a list or a series of entries. The first line is the most legible, starting with a large initial letter. The subsequent lines are increasingly difficult to read as the ink fades and the script becomes more compressed. The overall appearance is that of an old, well-used manuscript.

